



重要な計画の実施率である。スコアカードを使うと成績が低くなるために分母を小さくしたといわれる。評価基準を甘くして八割を超える実行率となる。特に実行が遅れているのはサービス貿易や輸

二〇一五年末は通過点〈ASEAN経済共同体

ASEAN 経済共同体 (AEC) は二〇一五年末に創設となっている。余すところ八ヶ月となり、AEC が本場に創設されるのに関心を持っている。AEC は市場統合 (貿易、サービス、投資、人の自由な移動など) に加え、輸送やエネルギー協力、格差是正、ASEAN 以外との FTA などを四大目標にする大規模なプロジェクトだ。AEC 創設のための行動計画は三〇〇を超えている。

ASEAN は二〇〇八年から AEC ブループリントという計画により AEC 創設を進めてきた。進捗状況はスコアカードという成績表で公表してきた。二〇一一年までの前半四年間のスコアカードは六七・五%であり、計画の約三分の二が実行されたことになる。最新の数字は二〇一四年末の八三・八%だ。ただし、スコアカードではなく優先的に実施する

送である。小売などサービス貿易の自由化は中小企業を含む国内企業への影響が大きく先進国でも難しいし、道路、鉄道、海運などの輸送はインフラ建設の資金が必要なためだ。また、非関税障壁の撤廃も進んでいない。これも先進国でも難しい分野である。一方で、関税撤廃は計画通り実現することは間違いない。AEC の関税撤廃率は九九%を超えることになる。日本の FTA の関税撤廃率が八五〜八九%であるのと比較するとレベルが非常に高い (日本の数値は先進国として例外的な低さである)。

二〇一五年末では、関税撤廃のように目標をほぼ実現する分野と相当自由化などが進展しているが目標を一〇〇%実現していない分野、大幅に遅れている分野が混在している。従って、二〇一六年以降も自由化やインフラ建設などの AEC への作業が継続する。そのため ASEAN は二〇二五年を目標とする AEC 二〇二五計画を作成している。二〇一五年末は AEC 創設のセレモニーなどが行なわれるだろうが、実態は実現に向けての通過点である。無理をせず時間をかけて進むのが ASEAN の流儀であり、サービス貿易自由化やインフラ建設も一〇年前と比べると着実に進展している。ASEAN のやり方を批判するのではなく、長期的な視点で ASEAN 統合への努力を見守るべきであろう。

〈石川幸一・アジア研究所所長〉

✻ 研究所だより ✻

第三十五回公開講座「中国との距離に悩む周縁」を六月六日(土)より五回連続で開催いたします。

六月六日

遊川和郎 (アジア研究所 教授)

「民主化運動から考える香港の将来」

六月十三日

平井久志 (共同通信社 客員論説委員)

「中朝関係の現状を探る」

六月二十日

廣瀬陽子 (慶應義塾大学総合政策学部 准教授)

「シルクロード経済圏構想と中露の利害対立」

六月二十七日

鈴木有理佳 (日本貿易振興機構 アジア経済研究所 研究員)

「南シナ海領有権問題で対立する中比関係」

七月四日

松田康博 (東京大学東洋文化研究所 教授)

「中国の影響強まる台湾・馬英九路線の成果と挫折」

受講料：三〇〇〇円 (全五回一括)

公開講座について、詳細はアジア研究所ウェブページ
詳細はアジア研究所ウェブページ (<http://www.asia-u.ac.jp/ajiken/index.html>) をご覧ください。また、0422-36-3172 (学務課) までお問い合わせください。皆様のご参加をお待ちいたしております。